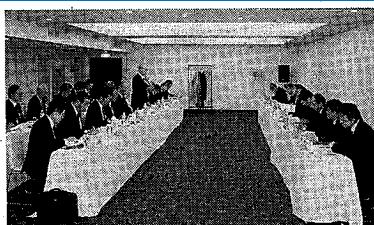


2009/11/9 付 建設通信新聞
【JCCA 東北支部】意見交換会の記事が掲載されました



総合評価、今年度は10件

低入札繰り返しに罰則

協東北、
建秋田
コ見交換
県

建設コンサルタント協会東北支部(遠藤敏雄支部長)と秋田県建設交通部との2009年度意見交換会が5日、秋田市内のアキバパークホテルで開かれた。宣貫。この中で協会側は、総合評価落札方式やプロポーザル方式といった技術力を重視したコンサルタント選定や、予定価格の事後公表などを要望。これに対して県側は、7月から試行を開始した総合評価落札方式の対象条件が、09年度は100件程度となるとの見通しを示した。一方、予定価格の公表時期は、透明性確保の観点から事前公表を継続するとした。

冒頭、あいさつに立った遠藤支部長は「公共事業を取り扱うが、地方における社会資本

整備は極めて重要であり、その必要性を広く社会に訴えていかなければならない」と強調した。その上で「われわれは、価格競争だけでは生きていけない。技術力を重視した選定とバランスをとって(入札・契約制度)運用してほしい」と語った。

これを受けて山下武宣真土整備技監は、「県内の建設投資が十分な監査期間が確保できる履行期限の設定や、納期の年度末集中の解消を要望します。一方、県側も早期発注開示などを求めた。県側は今月から、低入札受

2ヵ月間、指名差し控えを行

う。この間は、下請業者など

にかかるが、入札への参加や隨意

調査した。その上で「われわれ

は、価格競争だけでは生きてい

けない。技術力を重視した選定とバランスをとって(入

札・契約制度)運用してほ

しい」と語った。

このうち、入札・契約制度

について協会側は、技術力を

重視した選定方式のほか、タ

イーを導入していることを説明。具体的には、調査基準額

を下回って受注した場合、指名差し控えの警告(有効期

間2カ月)を通知し、その企

業が再度、低入札受注すると

2ヵ月間、指名差し控えを行

う。この間は、下請業者など

にかかるが、入札への参加や隨意

調査した。その後の見通し——の5項目を中心に討議した。

このうち、入札・契約制度

について協会側は、技術力を

重視した選定方式のほか、タ

イーを導入していることを説明した。

このうち、入札・契約制度</p